

【女子200m決勝】23秒25で2冠を達成した福島千里(左手前。大賀章好撮影)



陸上日本選手権

福島3年連続2冠

女子200で阿原砲丸投げ5位

【東京】陸上の世界選手権(8月、モスクワ)代表選考会を兼ねた日本選手権の第2日と最終日は8、9の両日、東京・味の素スタジアムで行われ、女子短距離の福島千里(北海道ハイテクAC)が帯南商高出で100mと200mを制し、3年連続で2冠を果した。福島は200mで23秒25をマークし、世界選手権参加標準記録Bを破った。100mは11秒41と同Bを切れなかった。100

▽女子砲丸投げの阿原典子(大塚製薬)は14m88で5位。男子砲丸投げの宮内優(モンテローザ)は53m08で6位、犬伏拓巳(日大)は52m88で7位、帯南商高出は52m88で7位に入った。同走り幅跳びの皆川澄人(小島プレス工業)は7m25で13位だった。

男子ハンマー投げでは38歳の室伏広治(ミス)が76m42で19連覇を達成。100mは山県亮太(慶大)が10秒11で初優勝した。4月に日本歴代2位の10秒01を出した17歳の桐生祥秀(京都・洛南高)が10秒25で2位。同投げは村上幸史(スズキ浜松AC)が2年ぶり13度目の優勝、昨年覇者のティン元氣(早大)は2位だった。同1方は佐藤悠基(日清食品グループ)が3連覇、400mは金丸祐三(大塚製薬)が9連覇、女子400mは障



【女子砲丸投げ決勝】14m88で5位に入った阿原典子(大賀章好撮影)

害は久保倉里美(新潟アルビレックス)が7連覇を達成した。

会心のレース 福島

▽福島が女子200m決勝で抜群のスタートを見

せた。低い姿勢で飛び出し、直線で大きくリードを広げる会心のレース運び。B標準を突破して世界選手権出場をほほほ確実にし、「今の力を出し切れた」とほっとした笑顔を見せた。

「100mの反省はたくさんあった。狙い過ぎは良くない。普通の気持ちで臨んだ」。気負いを捨て、平凡な記録に終わった前日から立て直した。それでも「最低限。まだ満足はできないが、これをきっかけにやっていたら」と自らを励ました。

【男子】100m 山県亮太(慶大) 10秒11、200m 飯塚翔太(中大) 20秒31、400m 金丸祐三(大塚製薬) 45秒56、800m 川元(日大) 1分47秒43、1500m 秋本優紀(山陽特殊製鋼) 4分22秒32、5000m 星川太(富士通) 13分49秒57、1万m 佐藤悠基(日清食品グループ) 28分24秒94、10km 矢沢航(法大) 13分59秒40、半マラソン 岸本鷹幸(富士通) 49分08秒7、走り幅跳び 大岩雄飛(モンテローザ) 7m76、走り高跳び 高張広海(日大) 2m25、三段跳び 梶川洋平(川崎市立) 16m36、砲丸投げ 畑穂聡(群馬総合) 18m30、ハンマー投げ 順大 2分5秒30



【男子円盤投げ決勝】53m08で6位に入った宮内優(大賀章好撮影)

1500m 陣内綾子(九電工) 4分16秒17、5000m 尾西美咲(積水化学) 15分21秒73、10km 陣内綾子(九電工) 33分00秒、半マラソン 佐賀陸協 13分02秒、大会新 400m 障壁 久保倉里美(新潟アルビレックス) 56秒62、3000m 障壁 荒井悦加(エディオン) 9分58秒22、走り高跳び 福本幸(甲南学園AC) 1m90、棒高跳び 竜田夏苗(武庫川女大) 4m10、三段跳び 吉田文代(福島) 13m14、砲丸投げ 白井裕紀子(滋賀陸協) 15m65、ハンマー投げ 綾真澄(丸善工業) 64m20